

優秀賞

王子保小学校5年

 藤木志遠さん

●研究テーマ

越前市王子保地区森久町に コウノトリは定住できるのか？ Part2

動機

森久町には、どうしてコウノトリが定住しないのか疑問に思ったぼくは、昨年度の研究でえさが十分にあるかどうか確かめるためにピオトープと水田の生物量(50×50cm²)を調査し、比較した。今年度は、昨年度の研究で疑問に思った点をさらに調査しようと思った。

内容

- ①森久町に、コウノトリが定住できるほどのえさが十分にあるのだろうか？
→ 冬にコウノトリのえさとなる生き物が少ないので、コウノトリが森久町に定住するのは難しいと思う。
- ②ヤゴは、どこにいるのだろうか？
→ ピオトープは、トンボやヤゴにとって重要な役割を果たしていることが分かった。
- ③冬水田んぼは、どうして良いのか？
→ 冬水田んぼは、冬でも水が凍らない。生き物が住めるから良いと分かった。
- ④退ひ溝の役割は何だろう？
→ 安定的に水がある環境が、水生生物には必要不可欠だと分かった。
- ⑤川の生き物調査
→ 冬には、コウノトリのえさとなる魚がいないので、コウノトリが生きていくのは難しいと思う。
- ⑥白山地区には、なぜコウノトリが何度も飛来しているのか？
→ 白山地区では、冬水田んぼ・無農薬農法も行われ、魚道・退ひ溝が整備されていた。白山地区の退ひ溝には、森久町のピオトープに比べて、コウノトリのえさとなる生き物の種類も量も多かった。

まとめや感想

コウノトリがたくさん飛来している白山地区のように、無農薬農法が行われ魚道や退ひ溝が整備されている環境では、生き物の種類と量が豊富で、コウノトリは定住しやすいと思う。森久町でも、たくさんの人に協力してもらい、水田の整備や水田魚道作り、魚の放流、無農薬や農薬を減らす環境調和型農業をしてもらえたら、コウノトリが定住できるかもしれない。